

平成 28 年度 鹿児島日本語短期研修報告書

～「進取の精神」支援基金 中短期留学生受入推進事業～

鹿児島大学グローバルセンター
市島佑起子・津田佳織

『鹿大「進取の精神」支援基金』による新規事業として平成 29 年 2 月 15 日～23 日の 10 日間、「鹿児島日本語短期研修」を実施した。これは海外の学術交流協定校の学生を対象に鹿児島を学び、体験するプログラムを実施し、成果を SNS で多言語発信するものである。日本語運用力の向上、異文化理解等、グローバル人材育成という教育上の目的に加え、多言語による生き生きとした情報発信はインバウンドの増加による鹿児島地域活性化に貢献すると考える。

本研修では海外学術交流協定校（以下、協定校とする）である湘潭大学（中国）と祥明大学（韓国）から 12 名の外国人学生を招聘した。参加学生はいずれも日本での長期滞在経験のない初中級～中級レベルの日本語学習者で、10 日間の研修を通して、鹿児島市内各所の見学、グループ別市内調査、日本語による調査内容のまとめ及び発表を行った。鹿児島での実地研修以外にも、2 か月間の事前学習及び帰国後の事後学習が設定されており、鹿児島に対する知識を深めると共に、日本語の運用能力向上を図った。

さらに、進取の精神支援基金事業の柱の一つである「鹿児島地域の活性化」を目指し、研修の成果としてインターネット上で多言語での鹿児島情報を発信した。メインテーマは「はじめての鹿児島」で、「発見」「観光」「歴史」のサブテーマが設定されており、参加学生による報告が日本語、中国語、韓国語で発信されている。

本事業実施にあたり、日本人学生 SA（サポーター）4 名が研修中の支援を行った。SA には海外に留学・滞在経験のある者を積極的に採用し、研修終了後も交流が続く環境作りを行う事で、外国人学生だけでなく、鹿児島大学で学ぶ日本人学生の国際化にも貢献できる様配慮した。

1. 鹿児島日本語短期研修について

1. 1 募集～事前学習

●募集の流れ

9/26 湘潭・祥明大学へ応募ポスター等送付

10/17 応募書類提出締め切り（協定校）

10/26 学生向け選考結果発表（協定校）

1/20 日本人 SA 面接（7 名）

●参加者内訳

- ・中国 湘潭大学 日本語学科 2 年生 6 名（女 6 名）
- ・韓国 祥明大学 韓日文化コンテンツ学科 2 年生 6 名（女 5 名、男 1 名）
- ・日本人学生 SA 4 名（女 3 名、男 1 名）

湘潭大学、祥明大学の担当教員と協議し、日本に長期滞在経験がない等、本研修のターゲットとなりうる学部 2 年生を中心として、各大学 6 名を募集した。尚、日本学生支援機構（JASSO）の奨学金受給要件を参考として成績指標 GPA が 2.4 以上である事を応募条件とし、申請書の内容から日本語力や積極性等を基準に、協定校担当教員が選抜を行った。

日本人学生 SA は、特に中国・韓国への留学経験者や交流実績のある者を積極的に採用する旨明記し募集した結果、予定人数より応募者が上回ったため、書類審査と面接により 4 名を選考した。

●事前学習

研修に際し、参加者には事前学習として 3 つの課題を課した。これにより、参加者が定期的に勉強会を開催し、渡日前に鹿児島に関する知識を深めるとともに、メンバー間の交流を深めた。課題は以下のとおりで、①②は全て日本語、③は言語自由とした。

- ①自己紹介、役割分担、勉強会のスケジュール決定 (11/7 提出)
- ②鹿児島で生活するために必要な情報を集め、まとめる (12/5 提出)
- ③鹿児島の歴史「幕末」「明治維新」「薩摩藩」について調べ、まとめる (1/31 提出)

1. 2 日程及び実施状況

< 日程詳細 > (2017.2.15-25)

2/15 (水)	10:20	湘潭大学生、鹿児島空港到着 →送迎・宿舎入居
	12:30	祥明大学生、鹿児島空港到着 →送迎・宿舎入居
	16:00	オリエンテーション／終了後、SA と周辺散策
2/16 (木)	9:00	グループ活動 (1) 自己紹介、鹿児島クイズ、自己紹介、桜島調べ学習
	11:00	学生食堂にて昼食 (SA 利用方法案内)
	12:00 - 17:00	市内調査① 桜島見学 ビジターセンター／溶岩なぎさ公園／黒神埋没鳥居／有村溶岩展望所
2/17 (金)	9:00	グループ活動 (2) テーマ A まとめ・発表準備
	12:00	昼食
	13:00	グループ活動 (3) テーマ A グループ内個人発表
	14:30 - 16:30	テーマ B 調査計画・発表準備・下調べ
2/20 (月)	9:00	グループ活動 (4) テーマ B 調査・発表準備 (テーマ決定／調査場所、調査時間計画)
	11:00 - 16:00	市内調査② 維新ふるさと館 昼食後、維新ふるさと館見学
2/21 (火)	9:00 - 18:00	市内調査③ 3 グループ (歴史、観光、発見) に分かれて市内調査
2/22 (水)	9:00	グループ活動 (5) テーマ B 市内調査資料整理、発表成果物制作
	12:00	昼食
	13:00 - 17:00	グループ活動 (6) テーマ B 発表成果物作成、日本語発表練習
2/23	9:00	テーマ B リハーサル、最終準備

(木)	10:00	成果物発表会
	11:30 - 12:00	修了式
2/24 (金)	8:50	祥明大学生、宿舎発 (11:30 鹿児島空港発)
2/25 (土)	10:30	湘潭大学生、宿舎発 (13:20 鹿児島空港発)

以下、本研修で行った主な活動について報告する。

●市内調査① 桜島 2/16 (木) PM

市内調査 1 回目は桜島で行なった。調査日午前、参加者は各チームに分かれ、鹿児島についてのクイズを通して知識を深めるとともに、チームメンバー同士の交流を深めた。クイズ終了後は桜島への交通手段、観光地、歴史等を自分たちで調べ、午後からの桜島研修に備えた。大学から校用車で桜島フェリーに乗船し、対岸を目指す。当日は天候に恵まれ、快晴の青空の元で見学ができた事は大変幸運であった。短い乗船時間の中で、錦江湾から眺める自然の雄大さに感動する者、写真を撮る者と慌ただしい時間を過ごし、無事上陸。桜島ではまず、ビジターセンターで桜島についての映像を鑑賞し、展示物を見学した。大正噴火など噴火の歴史や島の成り立ちについて学んだ後、溶岩なぎさ公園へ移動。公園では桜島を眺めながらの足湯に満足したようである。また、足湯に浸かりながら、日本に興味を持ったきっかけや自分の趣味、大学生活、家族のことなど日・中・韓 3 国の学生が話をする様子はとてもほほえましいものであった。

その後訪れた黒神埋没島居は、滞在時間は短かったものの、多くの学生が災害の恐ろしさを感じたようである。また、ヘルメットをかぶって下校する地元の小学生たちを見て驚いた様子であった。



有村溶岩展望所にて集合写真



溶岩なぎさ公園 (足湯)

●テーマ A 調査・発表 2/17 (金) AM

参加者には、日本到着直後から、気が付いたことや興味をもったことを写真に残しておく様指示をした。それぞれのグループで PC に写真をうつしながら、4 名が順番に日本語で発表を行った。テーマは、宿舎や店舗の実際の様子、移動中の街の様子に関するものが多く、いずれも日本語+母語 (中国語・韓国語) で作成され、後日 SNS で発信された。

テーマ A 『日本で気付いたこと/鹿児島で興味を持ったこと』

発表：1 人 5 分/4 テーマ (写真 4 枚以上)

<実際の発表テーマ> ※カッコ内は同テーマ人数。記載のない物は1名。

生活習慣・様式	自転車文化（韓 3）、ゴミ箱（中 3）、マスク（韓 2） トイレトペーパー トイレの音（中韓 1）、右側運転（中韓 1）、割りばし
街の様子	日本の建物（中 2・韓 1）、自動販売機（韓 2）、市電（韓 2）、信号（韓 2） 自動車、クラクション、無人駐車場、店の営業時間、「株」看板、無人販売店
名所・自然	黒神埋没鳥居（中韓 1）、桜島の石のコイン（中 2）、桜島、桜島の海、 神社と御神木、特別な木、温泉
食べ物	インスタントラーメン、学食、昆布、刺身、昼食、メニューと食事量
その他	日本のテレビ番組、大根人形、100円ショップ、一番くじ



発表準備



グループ内発表の様子

●市内調査② 維新ふるさと館 2/20（月）PM

市内調査 2 回目は「維新ふるさと館」を見学した。展示品のいくつかには 2 か国語での音声ガイドがあったため、特に歴史好き学生の興味をひいた。中でも人形ドラマの人气が高く、不明な点については日本人 SA に確認しながら、ゆっくりと館内を見学することができた。本調査は、鹿児島・日本の歴史について知識を深めると共に、翌日に実施されたグループ別調査の予備調査的役割を担った。加えて、参加学生の母語で学びを深められる場である維新ふるさと館を利用する事で、鹿児島の国際化、多言語対応の現状に触れる機会とした。

●市内調査③ グループ別調査 2/21（火）

市内調査 3 回目は、メインテーマを「はじめての鹿児島」とし、「発見」「観光」「歴史」のサブテーマで市内調査を行った。前日までに調査地、調査内容、交通手段、料金等について調査計画を作成し、テーマ別発表に向けて相談が行われた。当日は、各グループに日本人 SA 及び特任専門員が同行した事もあり、各グループ順調に調査を終了した。グループ別調査訪問先は以下の通り。

発見	仙巖園／薩摩切子工場／ドルフィンポート／照国神社／中央駅周辺
観光	焼酎蔵さつま無双／天文館／照国神社／城山展望台
歴史	城山展望台／西郷洞窟／仙巖園／照国神社／黎明館



焼酎蔵見学



仙巖園・御殿ガイドツアー



照国神社参拝

●テーマ B 発表 2/23 (木) AM

2/21 の市内調査に基づき、「はじめての鹿児島」について「発見」「観光」「歴史」のテーマでグループ発表を行った。発表用スライド (PPT) 及び発表原稿は全て日本語で作成され、発表後の質疑応答も日本語で行われた。直前までリハーサルを行うなど、最後まで緊張感を持って準備が進められ、当日の発表はそれぞれの実力が十分に発揮されていると感じられた。本発表の成果は、帰国後の事後学習としてそれぞれの母語に翻訳され、テーマ A と共に、SNS にて発信されている。発表テーマは以下の通り。

テーマ B 『はじめての鹿児島』「発見」「観光」「歴史」

発表：グループ 10～15 分/1 テーマ (スライド 10 枚以上)

チーム	発表テーマ
発見	鹿児島の朝から夜まで
観光	火山と共に暮らしている町 鹿児島
歴史	薩摩の信念と魂



発表の様子

1. 3 鹿児島短期研修アンケート結果について (対象 12 名)

No.	項目	とても良かった とても簡単だった	まあよかった 簡単だった	あまりよくない 大変だった	よくない とても大変だった
1	募集方法	10	2	-	-
2	事前学習 (勉強会)	2	9	1	-
3	宿泊設備	12	-	-	-
4	教員とのコミュニケーション	1	9	3	-
5	日本人 SA とのコミュニケーション	3	8	1	-
6	グループメンバーとのコミュニケーション	1	5	6	-
7	【2/16 市内調査①】桜島	12	-	-	-
8	【2/16 市内調査①】船やバスの移動	9	3	-	-
9	【2/17 テーマ A 発表】テーマ A 発表	1	10	1	-
10	【2/20 市内調査②】維新ふるさと館	4	8	-	-
11	【2/21 市内調査③】市内調査	11	1	-	-
12	【2/22 テーマ B 発表準備】発表準備	1	6	5	-
14	事後学習	5	5	2	-

(単位：人)

13	【2/22 テーマ B 発表準備】発表について (複数回答可)				
大変だった	3	難しかった	4	簡単だった	4
面倒だった	1	疲れた	2	よくできた	9
上手くできなかった	0	緊張した	6	やってよかった	11
達成感を感じた	12				

以下、自由回答の一部を掲載する。自由回答についてはできる限り原文に近い形で自然な日本語に修正した。また、自由回答の詳細については別紙「鹿児島短期研修アンケート結果」とおりである。

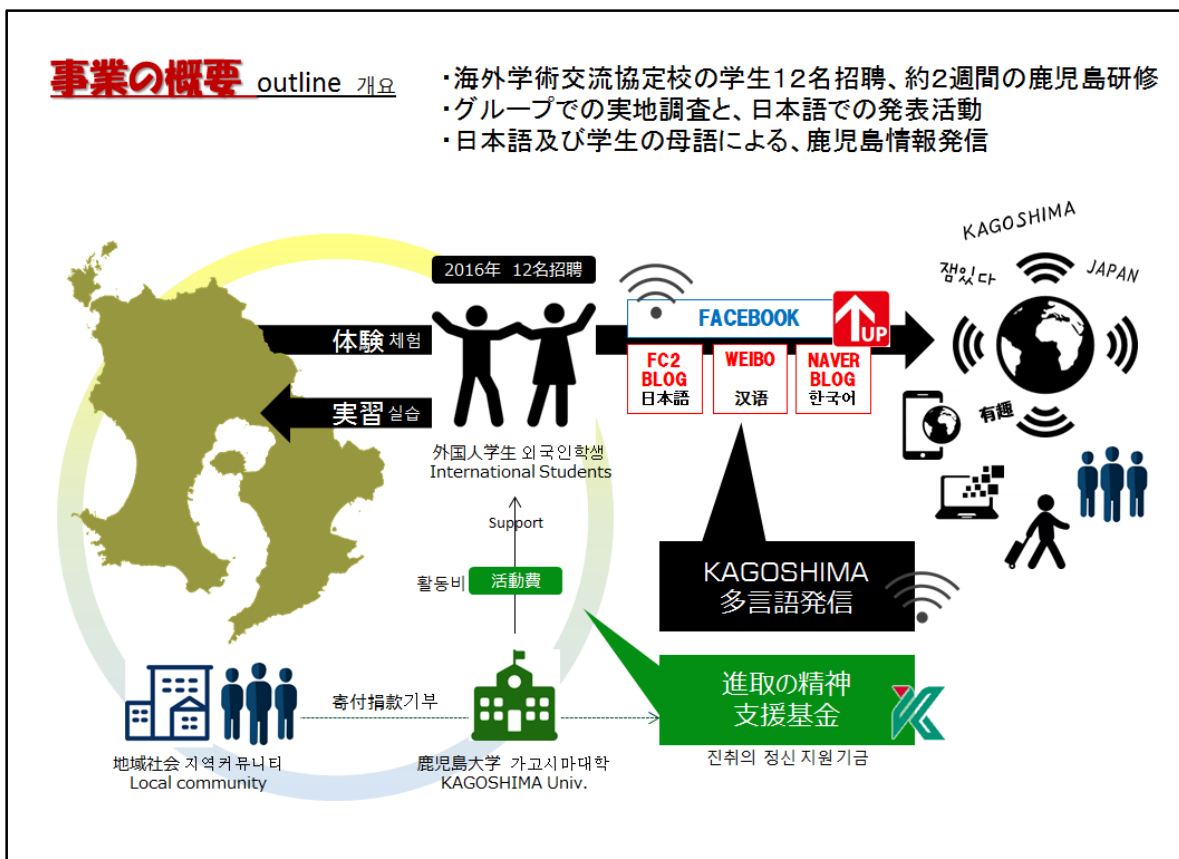
<今後の日本語学習の目標>

- ・大学院に入って、日本語を勉強し続けたいです。そして、将来通訳になりたいです。
- ・まず、N2とN1を受験するつもりです。大学でもっと本を読み、日本語をもっと練習しようとおもいます。機会があれば、日本の大学の大学院に入りたいです。
- ・先学期日本語能力試験二級を合格しました。今学期日本語能力試験一級を受験するために、これから通訳を目指しているので勉学に励みたいと思います。
- ・今後の日本語学習の目標は日本人とうまく交流するようになることです。私の考えは他人に理解されます。日本の優れたところを勉強しながら、我が国の長所を発揚したいと思います。
- ・もう日本語能力試験N2に合格しました。今日本語能力試験N1に合格するために、努力しています。日本語を勉強すればするほど意欲が湧いてきましたが、そのうちに自分自身の欠点も気づきました。教科書だけの勉強にとどまると、実際に日本人と話し合うとき、自分の考え方などは上手に相手に伝えられないのではないかと思います。それで、これからの日本語の勉強、もっと日本語を使って、日記を書いたり、日本語を勉強している学生と交流したりするつもりです。
- ・卒業のために JLPT N1 の準備をするつもりです。そして、日本人の友達ともっとしゃべる機会があればうれしいと思います。LINE を使って連絡を続けたいです。漢字の勉強も頑張ります。
- ・これから、日本の文学作品を読もうと思います。そして、日本会話の能力をもっと上げます。
- ・来年、日本交換学生を目標に N2 に挑戦する計画です。来年、鹿児島大学に交換学生として行きたいです!
- ・今後の日本語の目標は日本人たちと円滑な疎通をするほどの会話と単語実力を向上させることです。日本語はあまりできないが今回の鹿児島研修来ることができました。今回の研修は私に日本語に対する興味と日本に対する肯定的な認識を与えました。今回の休学の時日本語勉強を熱心にして N2 を取ることが目標です。卒業前までには N1 を取りたいです。
- ・今回の研修を通じて本で読む日本語と実際の言うことは大いに違うと感じたし、私のリスニングの実力がたくさん不足しているということを感じました。今年は漢字と日本語リスニングを中心に勉強して粘り強く単語を覚えて JLPT 3 級を取ることが目標です。
- ・確かに日本に行って直接日本語を使うのでさらに日本語の勉強をするべきだと感じました。今後も日本から韓国に留学に来た友達とたくさん会って日本語をたくさん使って、多様な日本文化をさらに体験して日本語勉強をしていく予定です。
- ・鹿児島短期研修を通じて日本に対する偏見が消えました。それにより日本語に対する関心も増えたのは、日本人の先生らと日本人サポーターがとても良くて話をしたいという気持ちになったためです。今後日本語の勉強を体系的に熱心にするつもりだ。SNS を通じて日本人の友達らと着実に対話を続けたい。

2. 『鹿大「進取の精神」支援基金』留学生受入推進事業について

2. 1 中短期受入日本語研修

本事業の平成 28 年度計画は以下の通りである。拡大図は本事業 HP を参照されたい。



2. 2 鹿児島多言語発信プロジェクト

本研修の成果である多言語での鹿児島情報は、以下のサイトで公開・発信している。

【多言語鹿児島発信・利用媒体】

Facebook（各言語 URL まとめ）

FC2 ブログ（日本語） weibo（中国語） Naver blog（韓国語）

内容はテーマ A・B の発表内容を日本語と中国語・韓国語で作成し、参加学生の出身国及び日本で利用者数の多い SNS 等の媒体を利用し、若者目線の生きた鹿児島情報を多様な人々へ発信できる様、体制を整えた。本取組みの狙いは以下の 3 点に集約される。

- 1) 若い視点での気付きや経験のシェア →若年層外国人の共感、ロコミ効果
- 2) 外国人目線での鹿児島レポート →地域住民には気付きにくい魅力、視点の発見
- 3) 参加学生の母語による情報発信 →外国人にとって自然で理解しやすい情報の提供

本発信の最も重要なキーワードは「共感」である。現在、日本各地の自治体において、地域の魅力や特色を多言語で発信する活動が散見される。大学所在地である鹿児島市や鹿児島県でも活動が見られ、正確で豊富な情報が掲載されている。一方、本プログラムにおける情報発信の特徴は、日本での長期滞在経験がない外国人の新鮮な視点から見えた鹿児島が正直につづられている点にある。初めて鹿児島を訪れる訪問者には有益なロコミ情報として、同様の体験をした先輩は懐かしさとともに、生きた鹿児島の情報が、地域に住む人々の想像を超えて広い世界にもたらされる。さらに、地域に住み続ける我々にとっては、鹿児島を経験した者同士が SNS で有機的につながり続けることで、情報発信が継続されると同時に、外からの気づきを得続けることができると考えている。

3. 総括

本報告は進取の精神支援基金によって実現した「鹿児島日本語研修」について、その活動内容をまとめたものである。実施にあたって最も悩んだのが、外国人留学生に対する教育と地域貢献活動をどのように両立させるかという点であったが、挑戦的試みの一つとして、情報発信を伴った日本語研修を企画実施する事となった。

本研修では参加学生に対して、海外の学術交流協定校教員の協力を得て実施した来日前の事前学習、鹿児島での見学や現地調査、日本語でのテーマ別発表など、日本語を使った実践的な学びの機会を多く提供した。これらの活動を通して、各学生は自身の言語力をはじめとする様々な力を総動員して課題に取り組み、その体験が今後の学びへの強い動機付けとなったことが、彼らの振り返りから明らかとなった。また、参加学生の一人が H29 年度後期から短期交換留学生として本学に再留学する事が決定しており、鹿児島大学の留学生受入推進にも寄与できたと考えている。

さらに、地域貢献活動として行った情報発信では、それぞれの視点で観察された鹿児島の情報がのびのびと記されており、SNS を介して外国人目線での鹿児島情報が広がり続けている。本活動は、近年増加している多様な外国人訪問者への PR、さらなるインバウンド増加を目指す地域貢献の一つとなる事が期待される。

地域貢献も学生教育もその実態は多様で万能特効薬などなく、何よりも時間と手間がかかり、長期的な視野を持って試行錯誤を続けなければ成果は目に見えにくい。留学生受入推進事業は、種々の反省を踏まえながら、今後も発展的に継続する予定である。本基金の目的の実現を目指し、地域、学生、大学それぞれに意味のある活動を継続できるよう、努力を続けたいと考えている。最後に、この様な貴重な場を持たせたことは、進取の精神支援基金に関係する全ての方々のお陰である。この場を借りて御礼申し上げたい。

市島 佑起子（鹿児島大学グローバルセンター 講師）

津田 佳織（鹿児島大学グローバルセンター 特任専門員）